

2020-ICT基盤政策特別部会

資料5-6

基本政策委員会

# 2020年世界最高レベルの インターネット環境に向けて



2014年4月22日

2014年6月1日

イー・アクセス  
とウィルコム合併

 SoftBank

 *Making it happen!*  
eAccess  
Broadband services

+

 WILLCOM



2014年6月2日

ソフトバンクから  
ヤフー(株)に株式譲渡

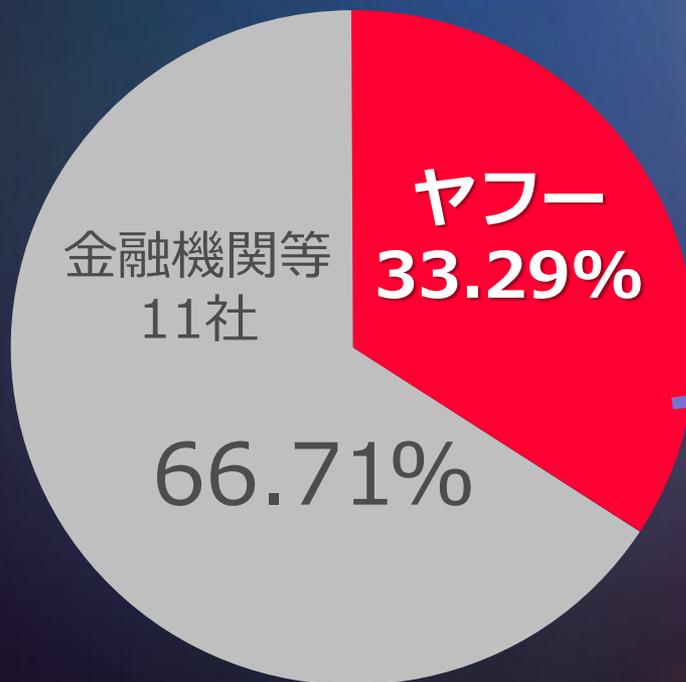
 YAHOO!  
JAPAN

 Y! mobile

# ヤフー(東証一部上場)が親会社 独立経営体制

**Y!** mobile

株主構成(議決権ベース)



## ヤフー株主構成

ソフトバンク(株)	36.02%
Yahoo! Inc	35.15%
一般投資家	22.34%
SBBM(株)	6.49%

The background features a silhouette of a hand holding a mobile phone on the left and a person's profile on the right, set against a warm, sunset-like gradient background. The text is overlaid on this scene.

**Y! mobile**

**2014年6月始動**

**第4の通信キャリアではない  
日本初のインターネットキャリア**

**Y! mobile**

# インターネットキャリアとは？ 通信キャリアとの違いは？



# メイン／サブの逆転

メイン

サブ

通信キャリア

通信(音声)

ネットサービス

インターネット  
キャリア

ネットサービス

通信(音声)

# Yahoo! JAPANのビジネスエンジンを モバイル事業に

**YAHOO!**  
JAPAN

- ✓Eコマース
- ✓コンテンツ



- ✓モバイル

# オムニチャネル化を実現

オンライン

Yahoo! JAPANの  
顧客基盤



オフライン

全国3,000店の  
店舗基盤



Yahoo!ショッピング

Yahoo!プレミアム

Yahoo!ウォレット

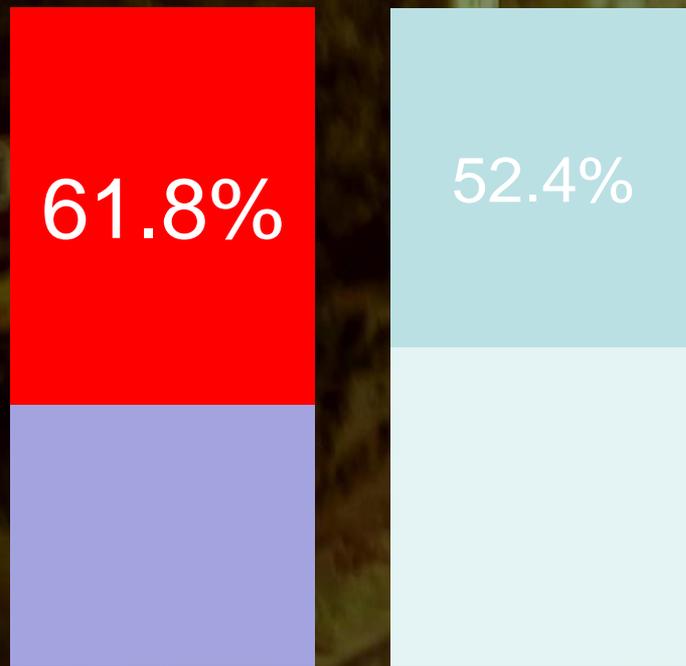




# 2020年世界最高レベルの インターネット環境に向けて

# スマートデバイス現状課題

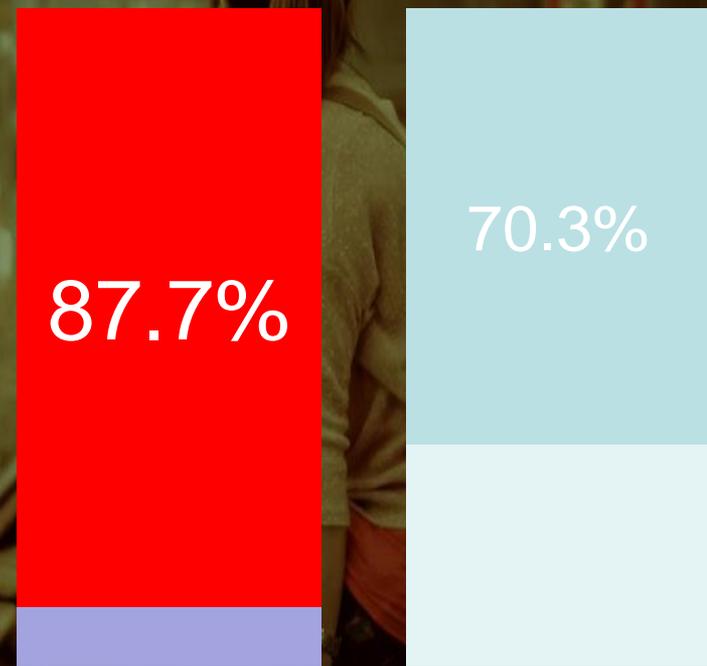
## スマートフォン未使用率



日本

アメリカ

## タブレット未使用率



日本

アメリカ

# スマホからスマートデバイスへ

大容量化・トラフィック拡大



スマホ  
タブレット

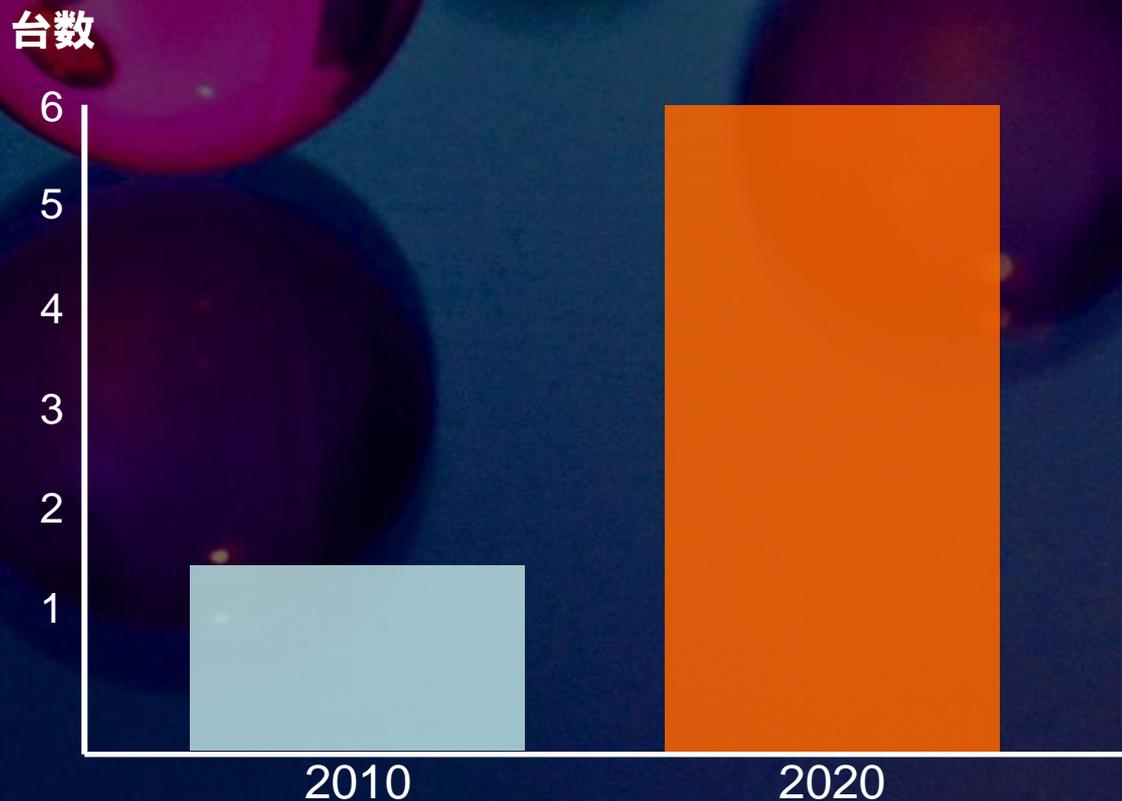


IoT  
ウェアラブル端末



高精細/3D

# 1人あたりの所有デバイスは 2010年1台から、2020年6台以上へ





2020年 全世界のスマートデバイス台数

500億台 / 2020年世界人口 76億人

# スマートデバイス拡大のための キー・ファクター

**周波数の早期拡大**

**固定インフラ基盤の充実**

**健全な競争環境**

# スマートデバイス拡大のための キー・ファクター

**周波数の早期拡大**

**固定インフラ基盤の充実**

**健全な競争環境**

# 確保済の周波数は 確実に2014年内に割当て



2020年を目標に2000MHzを確保

5GHz:500MHz幅

(第4世代)

4GHz:600MHz幅

(第4世代)

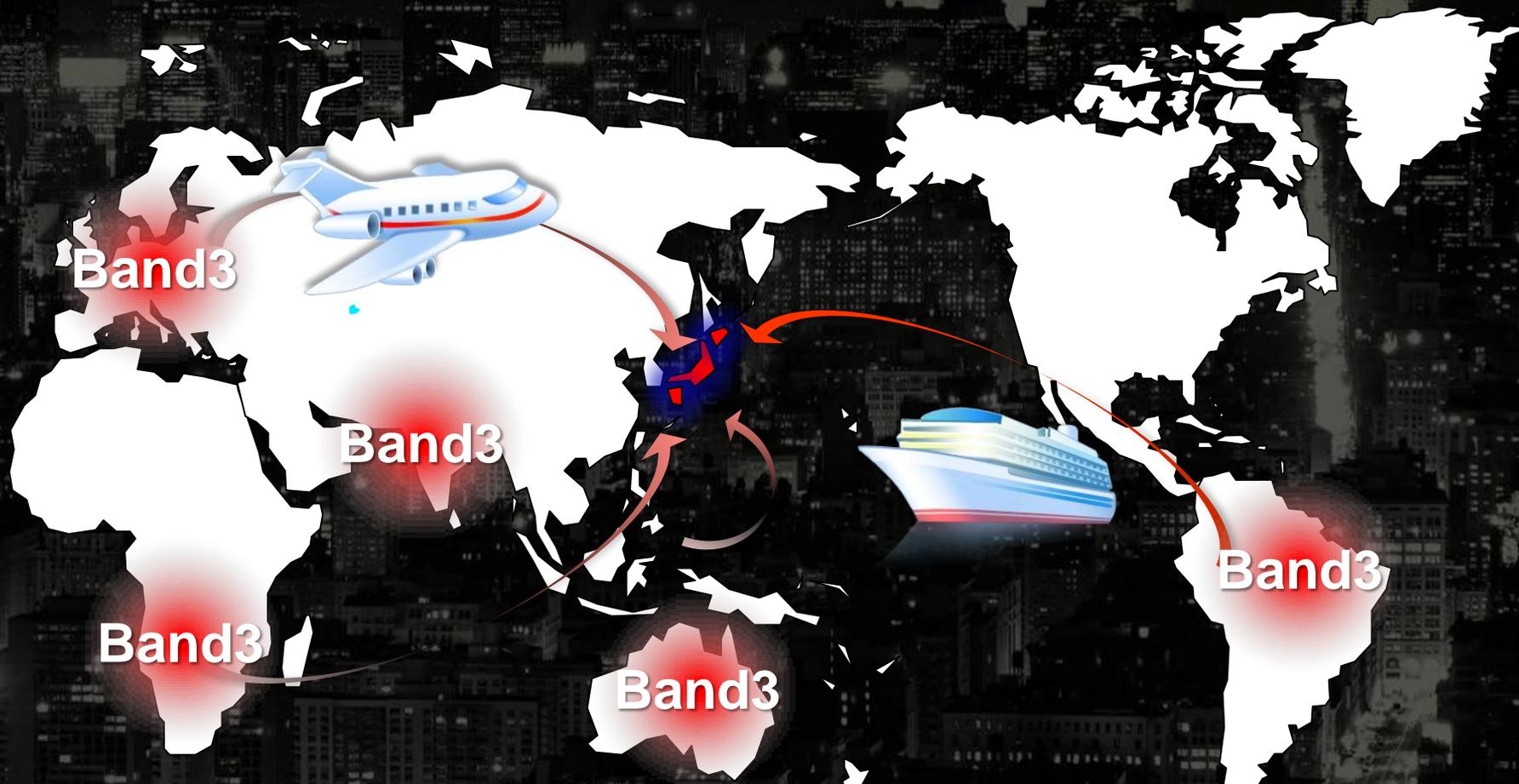
3.5GHz:200MHz幅

(第4世代)

1.7GHz : 10MHz

確保済

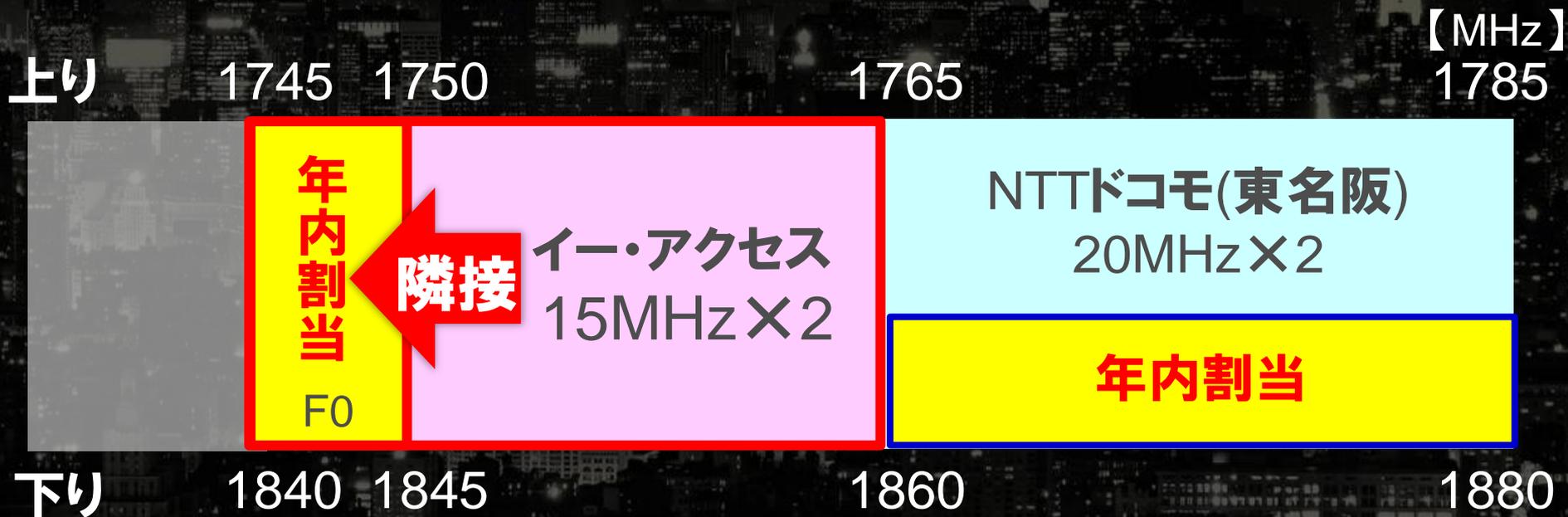
# 2020年に向け、1.7GHz帯(Band3)の 価値の最大化を図るべき



世界で利用されるLTE帯域のうち**43%**\*がBand 3

※出所:GSA “Spectrum used in 279 LTE commercially launched networks (FDD and TDD)” (2014.4.10)

# 日本における1.7GHz帯(Band3)の状況



## 国際標準(3GPP Band 3)



# 周波数の価値は 量だけではなく質が重要

## 周波数の質

周波数  
の量

高速化

周波数  
特性

国際調和  
・  
利用期間

# 競争市場を実現する周波数政策が必要

## 英国の例

① NWキャパシティ  
(割当周波数シェア)

15%以上

10-15%

10%以下

④ LTE利用帯域

800MHz  
1800MHz等も保有

強

1GHz以下

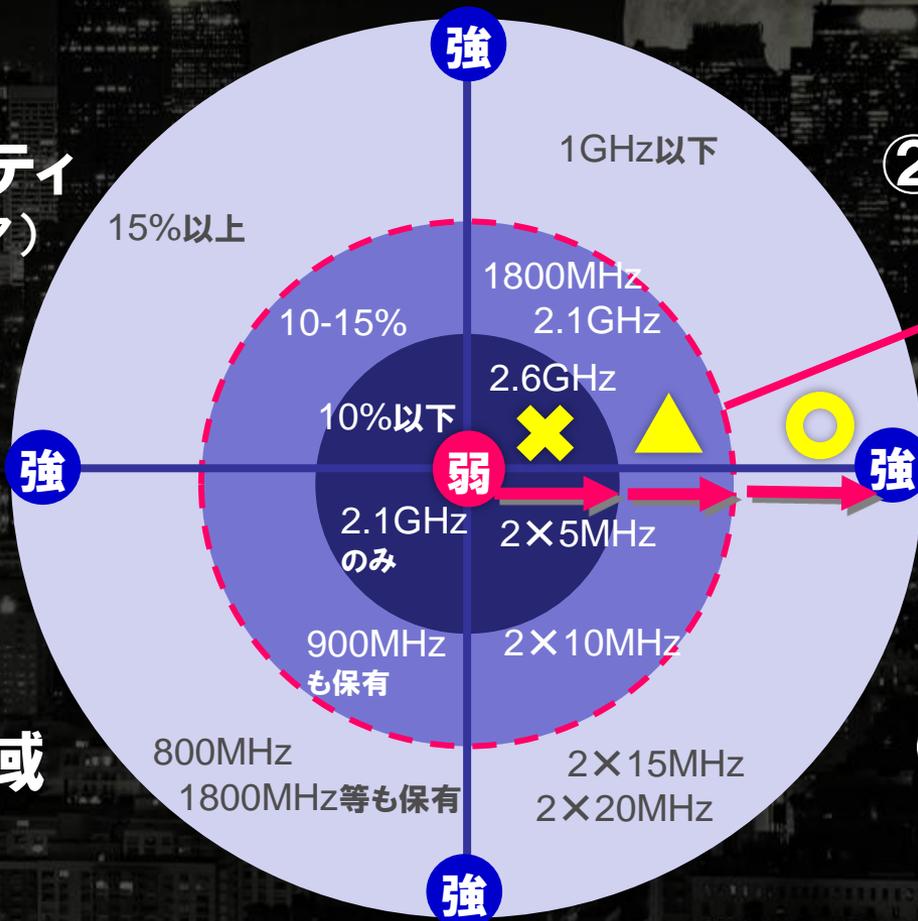
強

② カバレッジ  
(低周波数ほど高価値)

デッドライン

強

③ 最高速度  
(広帯域ほど高速)



事業者のクレディビリティ(市場での存続可能性)を4項目で検証

※日本ではシェア等競争環境が異なるため考慮が必要

# スマートデバイス拡大のための キー・ファクター

周波数の早期拡大

固定インフラ基盤の充実

健全な競争環境

# 大容量かつ低廉な固定回線の確保が必須

インターネット

トラヒックの  
増大

トラヒックの  
増大

バックボーン



維持コスト

コロケ費用

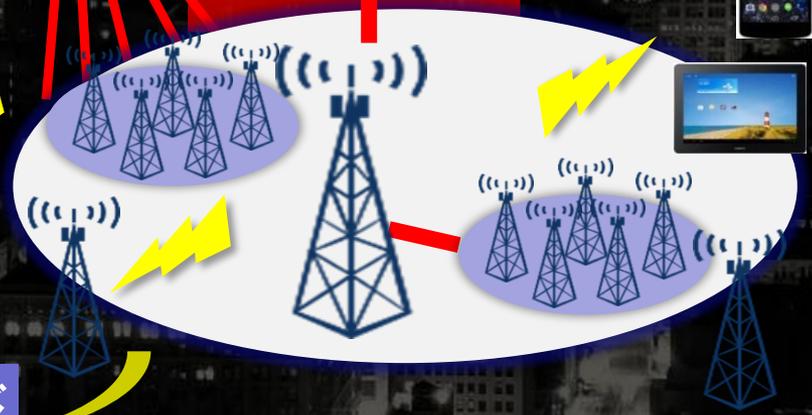
中継光ファイバ

FTTH

Wi-Fi

加入光ファイバ

基地局回線



オフロード

# 2020年に向けて 必要となる光ファイバは増大

## 無線LANスポット数



## 基地局数



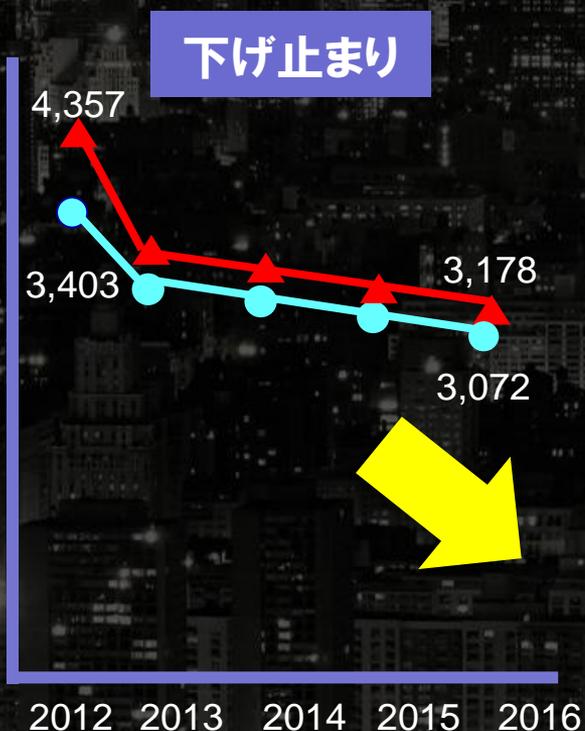
## バックボーン キャパシティ



# 光ファイバ・基盤は更なる低廉化が必要

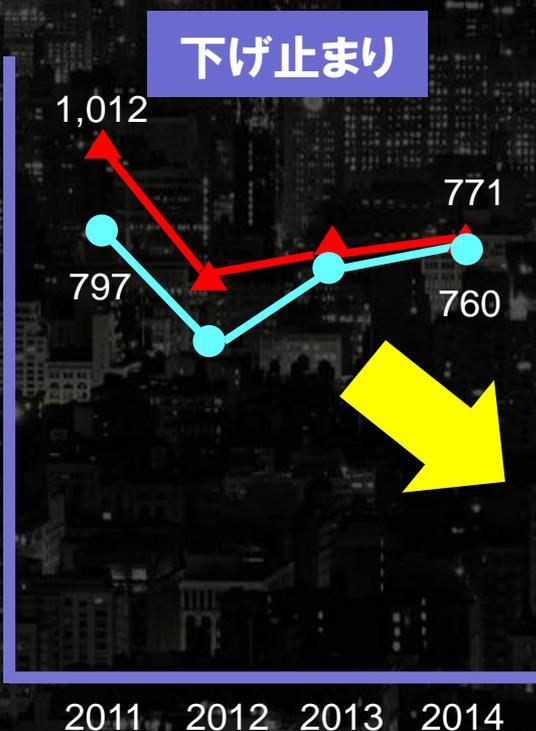
## 加入光ファイバ接続料

(円/回線:将来原価)



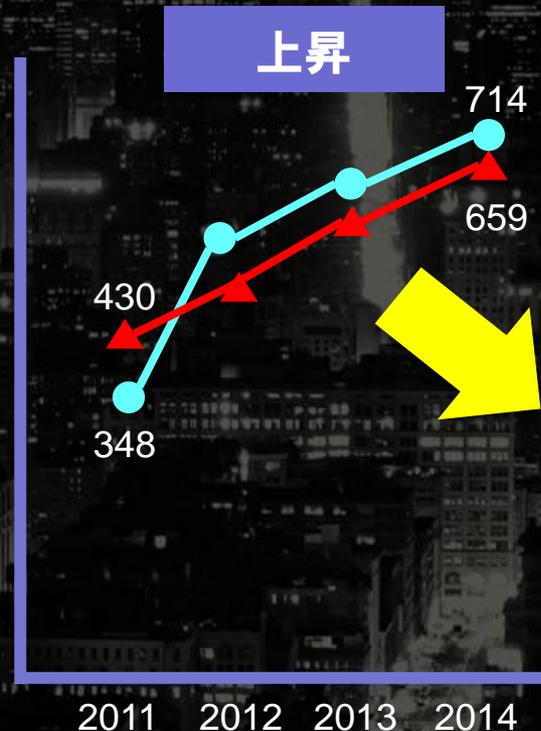
## 中継光ファイバ接続料

(円/芯・km)



## コロケ費用電気料

(円/1Aあたり)



出所:NTT東西接続料、当社コロケ費用データ

● NTT東  
▲ NTT西

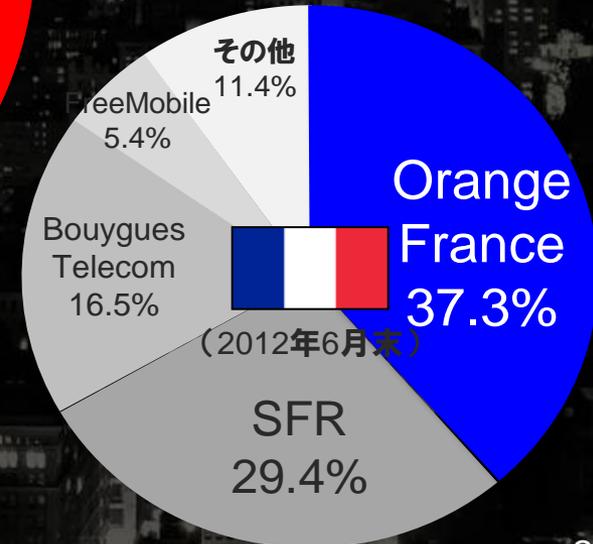
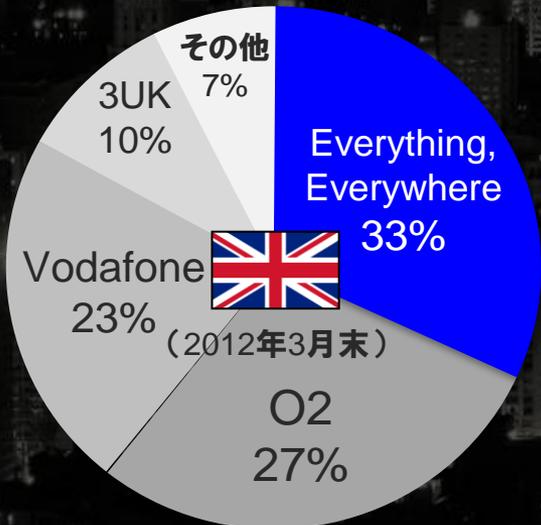
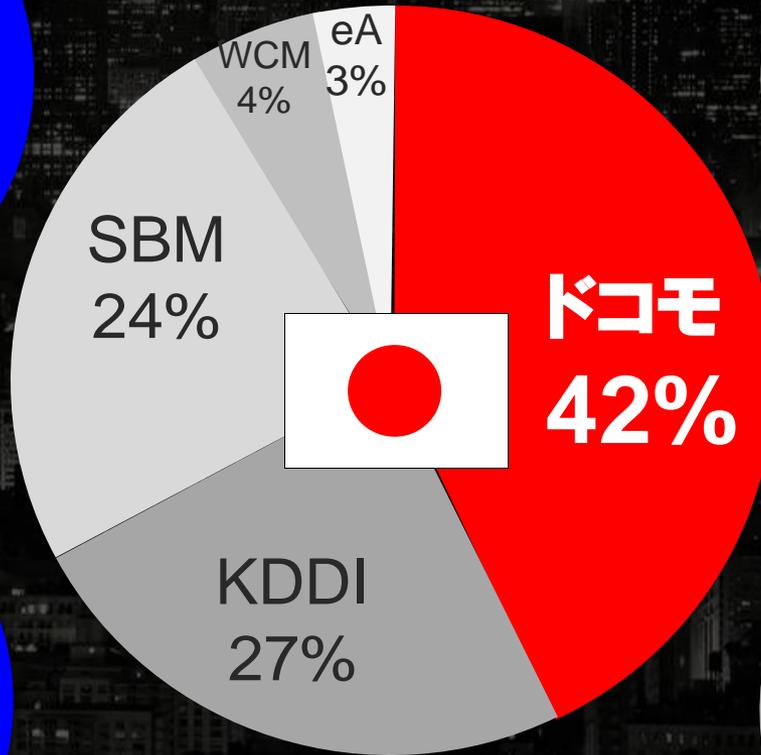
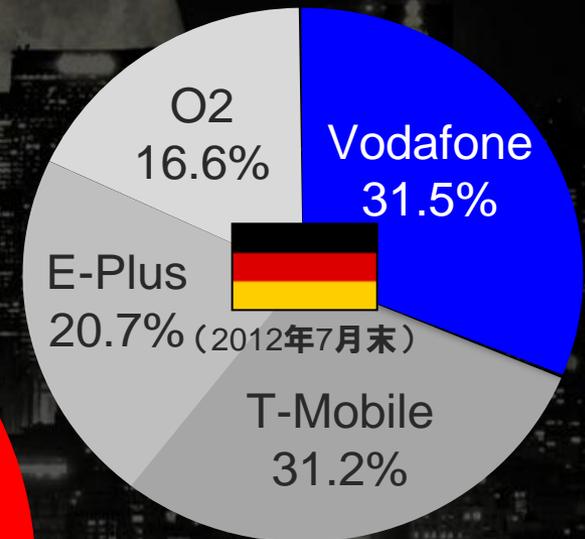
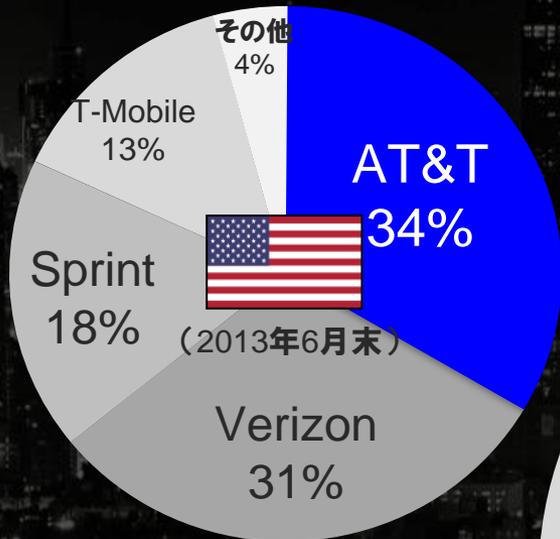
# スマートデバイス拡大のための キー・ファクター

周波数の早期拡大

固定インフラ基盤の充実

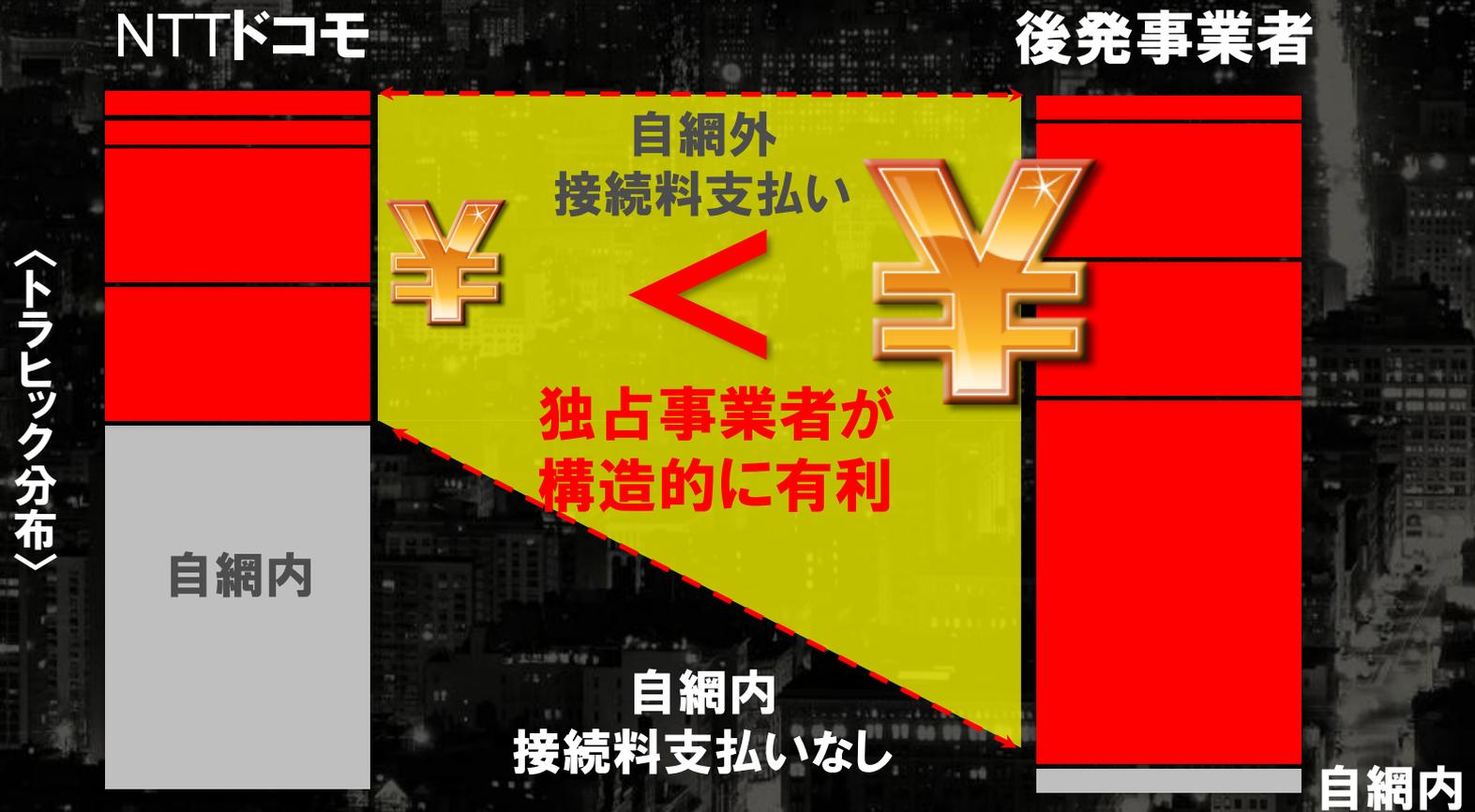
健全な競争環境

# シェアが拮抗するモバイル市場が目標



# NTTドコモの定額料金は競争を阻害 ビル&キープ or ぶつ切り制を導入すべき

## 定額料金のコスト構造



# <参考> ドコモの定額料金 6/1開始



国内初



カケホーダイ

何回でも・何分でも、どこにかけても、  
国内通話 カケホーダイはドコモだけ

ドコモ同士は  
もちろん、



他社にも、  
固定電話にも

ドコモケータイなら**2,200円**、スマートフォンなら**2,700円**

※2年定期契約、ISP契約なしの場合

6

# <参考> 接続料の設定方法

	現在:エンドエンド料金	ビル&キープ	ぶつ切り
ユーザ料金	相手方NW含めて、発側事業者が設定	相手方NW含めて、発側事業者が設定	自網部分を自らが設定
接続料	他社のNW利用料として接続料を互いに支払う	互いに支払いは行わない	自網にかかる接続料は設定しない



	①A→B	②B→A
ユーザ料金	A	B
接続料金	A→B	B→A

コスト回収:①B接続料、Aユーザ料金



	①A→B	②B→A
ユーザ料金	A	B
接続料金	0円	0円

コスト回収:①Bなし、Aユーザ料金



	①A→B	②B→A
ユーザ料金	自社網:A 他社網:B	
接続料金	なし	なし

コスト回収:①ABユーザ料金

# 過剰すぎるキャッシュバックは サービス競争へ影響



抑制のためのルール化の検討要

# ユーザ利便性の高い SIMフリー市場の構築も必要

## SIMロック解除

コスト



3,000円  
発生

時間



ショップ  
来店必須

NW  
互換性



他社SIMは  
動作保障なし

## SIMフリー



※ユーザが、SIMロック端末とSIMフリー端末を選択出来る市場を目指す

# 連名要望書の提出(4/2付)について

NTT独占回帰につながる政策見直しに反対  
65事業者・団体が連名要望書を総務大臣に提出

- ◆「2020-ICT基盤政策特別部会」において、多様な事業者による競争を通じて、国民利便の確保を図る観点に立ち、十分な検討・必要な措置を講じていただくため、4月2日、移動体事業者、固定事業者、CATV事業者、DSL事業者、ISP事業者、MVNO事業者などの競争事業者(65事業者・団体)連名の要望書を総務大臣宛に提出しました。

連名65事業者・団体

移動体事業者・固定事業者・CATV事業者  
DSL事業者・ISP・MVNO事業者他

# まとめ

**競争を促進させる周波数拡大**

**光ファイバ等の料金低廉化**

**健全な市場環境の構築**